



感染管理者としての当院での役割



感染管理看護師 篠崎 知津

私はこれまで院内感染防止対策委員会のメンバーの一員として、感染対策に取り組んでまいりました。感染対策の充実が重要視され、現場では専門性をもった看護師が求められていました。平成22年度診療報酬の改定により感染防止対策チームによる抗菌薬適正使用等の取り組みの評価として、感染防止対策加算が導入となりました。それに伴い、自分自身の専門知識を深めたいと思う気持ちも高まっており、病院の方々の協力によって「感染制御実践看護学講座(6ヶ月研修)」に参加し、資格を取得することが

できました。
無事に研修を修了し、今年の4月より感染管理看護師として勤務しています。ICD (Infection Control Doctor) を中心に感染対策チーム (ICT) のメンバーと週1回耐性菌ラウンドとして感染症の発生状況や抗菌薬の使用状況について確認を行っています。その他に院内の環境ラウンドを行い、環境整備面、必要な感染対策などについても確認しています。その際、現場と一緒に考え対策を提言するよう心掛けています。
またサーベイランス事業として厚労省院内感染対策サーベイランス (JANIS) の全入院患者部門・手術部位感染 (SSI) 部門・検査部門・集中治療室 (ICU) 部門にも参加しています。院内ではCLABSI

(血流感染)、手指消毒剤使用状況を調査しています。今後は院内感染率を現場の医療従事者に効果的にフィードバックし、感染率の低下・感染リスクの低減のために職員教育とケアの改善を図る必要があると考えています。その他に職業上の曝露による感染を予防するため、あるいは医療従事者自身が感染源となることを防止するために、各種抗体検査の実施とワクチン接種の推進を行っています。
感染管理看護師として始まったばかりですが、当院での感染対策の見直しと充実を行い、病院全体が感染対策に関心を抱き、積極的に対策に取り組めるよう努力していこうと考えています。

看護部通信

働きやすい職場へ



看護部 副部長 風本 洋子

4月より、看護師の象徴であったナースキャップが廃止となりました。また同時にパンツスタイルのユニフォームが導入され、職員からは活動的に働けるようになったと、患者様、ご家族からは明るく若々しくなったと好評をいただいております。
さらに、4週6休のシフト勤務体制が導入され、休暇が取得しやすくなりました。「仕事」と「仕事以外の生活」の調和が取れ、ゆとりが持てるようになりました。仕事への満足度や意欲が高まり、看護職に対する積極的なコミットメントに繋がっています。そして短時間勤務制度の導入

に引き続き、準備段階である院内保育所開設による子育て支援など、働き続けやすい職場環境の整備を目指したいと思います。
看護職の確保・定着に向けて、選ばれる職場づくりを考える上での実習生や新人看護師の受け入れに対しては、「あの人のようなナースになりたい」「ここで働きたい」と感じられるよう、『教えることは学ぶことの半ば』という考え方をもとにした「屋根瓦方式」指導および、体制づくりの整備を行いました。これにより新人職員の早期退職予防に効果があったと

思われます。また夜勤回数の傾斜配分が導入され、賞与にも反映されるとのことで、「夜勤はしんどい」から「夜勤を頑張った」と、モチベーションのアップに繋がりました。
昨年より看護部運営委員会が発足し、より一層の組織強化を図るべく今年度より看護部副部長が任命されました。一緒に任命された川本かよ子副部長と看護部運営委員で力を合わせて看護部長を補佐していきたいと思っております。

着任しました

9月着任の医師紹介



きさか よしやす
木阪 吉保 [消化器内科 / 医長]

- ①消化器内科 (主に肝臓) ②愛媛大学、平成14年卒 ③東温市 ④A型 ⑤愛媛大学から赴任してきました。趣味は食べ歩き (専門はB級グルメ)、たまにテニスをします。若輩者ではありますが、よろしく願いいたします。